

血管侵襲，臨床病期，重複癌の有無）の相関性を検討した。

その結果，*nm23* 蛋白の発現抑制と気管傍リンパ節転移との間に有意な相関が認められ，*cdc25B* や *cyclinD1* の過剰発現は *EGFR* の発現と有意に関連していた。

以上より *nm23* 遺伝子は甲状腺乳頭癌においても転移抑制因子として機能している可能性があること，細胞増殖シグナルにより *cdc25B* と *cyclinD1* が活性化を受け，過剰発現が起こることが示唆された。

9. Electrophysiological studies in spinocerebellar ataxia type 6: a statistical approach

（脊髄小脳失調症 6 型の電気生理学的検討：統計学的アプローチ）

江 藤 留 美（内科学第三）

脊髄小脳失調症 6 型 (SCA6) は主に小脳が障害されるが，電気生理学的に小脳以外のサブクリニカルな障害を示す報告がいくつかある。しかし，SCA6 は高齢発症のため，加齢による修飾を考慮すべきと考えた。我々は電気生理学的異常が SCA6 の病態によるものであるか否かを確認するため，SCA6 10 例と，age match させた正常対照群を対象に，脳幹聴性誘発電位 (BAEP)，視覚誘発電位 (VEP)，体性感覚誘発電位 (SEP)，神経伝導検査 (NCS) を記録し，この 2 群で統計学的に比較した。

結果は，BAEP では，SCA6 において I 波と III 波の潜時が有意に延長していた。VEP と SEP では，2 群間で有意差はなかった。NCS では，SCA6 の腓骨神経の複合筋活動電位の振幅と腓腹神経の知覚性複合神経活動電位の振幅が，有意に低下していた。

これらより，SCA6 の聴覚路，運動路，感覚路の末梢での障害の存在が示された。

10. Expression of the insulin-like growth factor system and cancer progression in hormone-treated prostate cancer patients

（ホルモン療法後の前立腺癌患者におけるインスリン様成長因子，レセプターおよび結合蛋白の発現と癌の進展に関する研究）

三 田 耕 司（泌尿器科学）

抗男性ホルモン療法後に残存するヒト前立腺癌組織において，各種臨床病理学的所見とインスリン様成長因子 (Insulin-like growth factor: IGF- I, -II)，その受容体 (IGF receptor: IGF- I, -II) と 6 種類の結合蛋白 (IGF binding protein: IGFBP-1~6) によって構成され

る IGF system の mRNA 発現との関連を検討した。その結果，IGF-I と IGF-II の mRNA 発現態度が異なり，臨床的に予後不良とされる指標を有する症例に IGF-II と IGFBP-2 の mRNA 発現の高発現が観察された。本研究より抗男性ホルモン療法後の前立腺癌組織内における IGF-II と IGFBP-2 の mRNA 高発現は，ヒト前立腺癌の進展と強く関連し，これらの発現の解析は臨床的な予後予測指標になりうるものと考えられた。

11. Study on the association between clinical manifestations and mtDNA in Pearson syndrome

（Pearson 症候群における臨床像と mtDNA の関連についての研究）

宗 像 (村木) 可 枝 (小児科学)

小児期の骨髓異形成症候群の鑑別診断となる Pearson's marrow-pancreas 症候群における欠失 mtDNA の正常 mtDNA に対する割合を，血液細胞および剖検臓器で検索した。血液細胞では，欠失 mtDNA の比率が高いほど血液障害も強く現れていた。剖検例における多臓器間の比較では必ずしも重症の臓器で欠失 mtDNA の割合が高いとは言えなかった。この事は，ある臓器における重症度は欠失 mtDNA の割合が高いほど重症であるが，臓器によってその割合の閾値が異なる可能性が考えられた。また，孤発例の Pearson 症候群で，重複 mtDNA が検出され，PCR 法で確認したところ，その症例では病初期のサンプルからも重複 mtDNA が検出できた。この事から，単独に欠失 mtDNA を持つ症例が孤発例で重複 mtDNA を持つものが母系遺伝すると断定は出来ないと考えられた。

12. Expression of matrix metalloproteinases (MMP-2, MMP-9, MT1-MMP) and their inhibitors (TIMP-1, TIMP-2) in common epithelial tumors of the ovary

（上皮性卵巣腫瘍におけるマトリックスメタロプロテアーゼ (MMP-2, MMP-9, MT1-MMP) とそのインヒビター (TIMP-1, TIMP-2) の発現に関する研究）

阪 田 研 一 郎 (産科婦人科学)

【目的】上皮性卵巣腫瘍における MMP-2, MMP-9, MT1-MMP, TIMP-1, TIMP-2 の発現を検討し，それらの生物学的悪性度や転移への関与について考察した。

【対象及び方法】上皮性卵巣腫瘍 114 例を対象に各 MMP, TIMP の免疫組織化学的発現状態と臨床病理学的因子との関連を検討した。さらに RT-PCR 法で MMP-2, MT1-MMP, TIMP-2 各々の mRNA 発現を検討した。